

U021-05

会場:304

時間:5月24日 09:55-10:15

今村明恒「関東大震災の回顧」から

Lessons learned from the career of Prof. A. Imamura for the earthquake disaster prevention

武村 雅之^{1*}

Masayuki Takemura^{1*}

¹ (株)小堀鐸二研究所

¹ Kobori Reserch Complex INC.

地震学者の情報発信と社会的反応の問題を考える上で、今村明恒の生涯は大変参考になる。昭和4年に書かれた震災10周年を記念した標記論文(「地震」第1輯第5巻第9号)を紐解きながら問題の糸口を探る。今村は震災前に二度、世にいう地震騒動を引き起こしている。一度目は明治38年で、「太陽」に掲載された彼の論文が騒動の発端となった。彼はただ「地震時に於ける火の用心の大切な所以を力説したものである。」という。それに至るまでの過程で震災予防調査会での研究成果を述べ、結果として東京の絶無に近い消防能力の現状を放置すれば「他日大地震の襲来を被りたる時、帝都は丸焼となり、十万の死者を生ずる」と警告している。「何人と雖も、其道理過ぎる程の事実たりしを認め得たであろうが、然し乍ら当時於いてはそうではなかった。」今村の悔しさと同時にそこには反省もあったようである。

二度目は大正4年の千葉県群発地震に関するもので、今村は当初より関東地震との関連を懸念していたが、今回は慎重を期して「徒に心配しない様に、然し乍ら、事態を余り軽視しない様に、それとなく火の用心を勧めた。」ところが、過剰反応をしたのは東大地震学教室教授で調査会幹事の森房吉と調査会会長の菊池大麓であった。たぶん「またか!」と思ったのだろうが、森の今村に対する批判は彼の学説を完全に否定して「当分東京付近には大地震が無いと断定し得る。」とまでエスカレートする。民心安定のためとはいえ、国や国民におもねる権威の姿勢と、欧米に比べ我が国の地震学が、地震の学理探求という面で遅れていることを、この時今村は痛感したようである。

そんな中で発生したのが大正12年の関東地震であった。それまで30年余りの間、日本の地震研究の中心にあった震災予防調査会についての今村の評価は、建物の耐震化など地震防災に直接関連する部分の進歩を高く評価する一方で、特に後半期における活動の不活発化と森の独壇場と化した状況の限界を感じ、さらに政府に対する提言力の弱さが関東大震災をあれほどの大災害にしてしまったとするものであった。

震災後の状況に対して今村は、十分とは言えないまでも、地震の学理探求に対しては地震研究所が、政府への提言をするためには震災予防評議会が設立されて、「地震の学徒として予の如き幸運児は他に其匹?を求め難い」と述べている。一方、国民に対しては「以前は大地震に対する適当な警告が呪詛せられ、気安めの楽観説が却て歓迎を受けたが、此点は今猶お変わりがない。之が為に、気の利いた専門家は口を鎖し、気の利かないものは依然として呪われている。」と述べている。また、ノルウェーの国民は実生活と没交渉のオーロラの研究を、国を挙げて支援していることを例に、「地震と実生活とは到底切離し得ない密接な関係あるに拘らず、吾が国民の地震に対する無理解を想うとき、実に感慨無量である。」と述べ、さらに続けて「若し地震研究が今後進展して、或る程度までの予報が可能になったとしても、地震の理解なき社会に向ってはそれが利益少きのみならず、寧ろ弊害を伴うであろう。斯く考えるとき、震災予防の第一義は地震知識の普及に帰着するであろう。」とも述べている。

さらに震災後10年間の学問の進展を評価して「地震学界に於ける至難の問題もやがて解決の時期が来るであろう。」と述べる一方で、「然し乍ら、地震予知問題と震災予防問題とは其間に若干の逕庭がある。成程、地震予知問題が解決されたら、震災予防上に好結果を齎すであろうが、然し乍ら、それが未解決のままでも、震災予防の実行は不可能ではない。耐震構造の普及と震災予防に関する地震知識の普及とは、今日に於ても、震災予防問題解決の鍵となるであろう。」と述べている。最後に評議会が、創設以来理学工学の分野を超えて行ってきた、地震知識の普及と耐震構造への取り組みなどを紹介して論文は終わっている。

今村が幹事となって活動してきた震災予防評議会は昭和16年に行政整理の一環として廃止されるが、今村はその必要性を訴えて(財)震災予防協会を設立した。地震学者今村明恒と地震工学者との信頼関係は厚く、その後の震災予防協会70年の活動もそれに支えられてきたとも言える。地震学の成果のみでは「震災予防」は実現できない。地震に関する情報発信も「震災予防」全体の枠組みを意識したものでなければ、却って国民の不利益になるかもしれない。今村明恒は、歴史上そのことを最もよく分かって「震災予防」に生涯をささげた地震学者だったのではないだろうか。

キーワード: 今村明恒, 関東大震災, 地震

Keywords: A. Imamura, Great Kanto Earthquake, ZISIN